

今月のスマイルさん  
Everyone to be happy with a smile



こうだいくん(左)、けんたくん  
元旦健康マラソン大会でお会いしました

## 国史跡指定10周年 百済寺の歴史に親しむ

12/14

平成20年7月に百済寺境内が国史跡に指定され、10周年を迎えることから、愛東コミュニティセンターで記念講演などのイベントが開催されました。

講演会では、大阪市立大学教授の仁木宏さん、滋賀県立大学教授の中井均さんがそれぞれの視点で熱弁されました。



①オープニングは地元「あいう若鮎太鼓」の演奏  
②説明を聞きながら創作御膳を味わう参加者

また、地元産野菜を使った創作御膳を提供されたほか、銘酒「百済寺樽」の販売などの物産展、百済寺歴史〇×クイズなども企画され、多くの人でにぎわいました。

湖南市から来場した竹端篤寿さんは、「百済寺をアピールするため、地元の人々が熱心にイベントに取り組みされていることが伝わってきました」と話しました。

## 蒲生医療センターの運営に関して 医療法人社団昂会と協定締結

12/26

東近江市蒲生医療センターの管理運営にかかわる基本協定書の調印式を行いました。

蒲生医療センターは、医師確保が困難な状況で、外来患者数の大幅な減少などから極めて厳しい経営状況となりました。

そこで、蒲生医療センターを存続させ、地域医療を確保し、より質の高い医療サービスを提供する手段として、令和2年4月から指定管理者制度を導入します。



相馬理事長(左)と小椋市長

今回、指定管理者制度を導入する施設は、蒲生医療センター、鑄物師診療所、長峰診療所です。

小椋市長は、「今回の協定が地域で完結できる治療を進めることができ、大きなチャンスだと考えています。蒲生医療センターは、これまでの家庭医療に加えて、がん治療の拠点病院として、同法人との絆、連携を深めて、より高度な医療を提供できるよう進めていきます」と思いを寄せました。

また、医療法人社団昂会相馬俊臣理事長は、「これからの医療は、がんと向き合って共生していかなければなりません。がん治療を完全なものにすれば、健康寿命も延びます。その手助けとなるよう蒲生医療センターの運営を進めていきます」と展望を話しました。

## 走り初め"を楽しむ" 元旦健康マラソン大会

1/1

「1年の健康は元旦にあり」をキャッチフレーズに、第58回東近江元旦健康マラソン大会が布引グリーンスタジアムを発着点として開催されました。

元旦の走り初めができた。



①勢いよくスタート!  
②コースを駆け抜ける参加者  
③正月気分を盛り上げる餅つき

### 各部優勝者

- 一般男子10km(40歳以上): 下村悟さん(33分53秒)
- 一般男子10km(39歳以下): 大辻夏樹さん(32分08秒)
- 高校男子10km: 安原太陽さん(31分19秒)
- 一般女子10km(高校生含む): 武士純子さん(39分54秒)
- 一般男子5km(高校生含む): 山下哲史さん(16分47秒)
- 一般女子5km: 山内友佳里さん(21分01秒)
- 高校女子(中学生含む)5km: 山根実那子さん(18分26秒)
- 中学男子5km: 安原海晴さん(16分34秒)
- 中学女子3km: 大谷心優さん(11分23秒)
- 小学男子(3年~6年)3km: 佐々木勝紀さん(10分37秒)
- 小学女子(3年~6年)3km: 加藤那奈さん(12分07秒)

とあって、市内外から171人が参加しました。

同大会には、3km、5km、10kmの3コースがあり、多くの声援を受けながら沿道を駆け抜けました。

ゴール後には、参加者らにぜんざいが振る舞われました。

家族4人で参加した原田道彦さん(米原市)は、「元旦健康マラソンは、走り終わった後の爽快感とおもてなしのぜんざいが最高です」とすがすがしい表情で話しました。

## 伝統の裸まつり 若衆による「まゆ玉」争奪戦

1/12

ふんどし姿の若者が3mの高さの梁につるされた「まゆ玉」を奪い合う市辺薬師堂裸まつりが法徳寺薬師堂(市辺町)で行われました。

鎌倉時代から伝わるとされるこの伝統行事は、県選無形民俗文化財、市指定無形民俗文化財になっています。



①②梁によじ登りまゆ玉を奪い合う若者たち  
③まゆ玉を初めて勝ち取った森悠真さん

まゆ玉を取った人は、その年の良縁に恵まると伝えられており、若連中と呼ばれる若者28人が儀式に続き、「チョウウチャイ、チョウチャイ」の掛け声とともに、エゴノキの枝に餅を付けたまゆ玉を奪い合いました。

まゆ玉を勝ち取った高校3年生の森悠真さん(市辺町)は、「あきらめず絶対

に取るという強い気持ちでのぞみ、6年目の参加でやっととることができて嬉しいです」と話しました。

保存会の小菅吉雄会長は、「地元に住む若者が減少する中でも、積極的に参加してくれている若者や町内外の皆さんの支援により、この伝統行事が続けられることに感謝しています」と話しました。